

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年 6月 5日記入

基本目標	Ⅱ ▼ ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	22210
政策名 (章)	第2章 水やみどりの保全と創造に努めます	評価担当課	土木部 ▼
基本施策名 (節名)	第2節 みどりと調和した水辺空間づくり		河川整備課
施策名	自然に配慮した河川環境の創造	課長名	山口英雄

1 施策の概要・目的

河川の自然環境の保全に努め、みどりあふれる個性豊かな水辺空間を創出し、うるおいのある川づくりを推進する。

2 施策の現状

治水の安全性を確保し、河川に生息する多様な動植物の生育環境を保全する多自然型川づくりを、一級河川道保川や準用河川八瀬川等で実施している。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

32,368 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

53 円/人……人口は、**61.6** 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 **99** 番目です。

(4) 施策に要している人員

0.3 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	河川改修率 改修済延長÷改修計画延長×100 2,006m÷10,533m×100	河川改修率により、自然に配慮した河川環境の進捗状況を表す	2,006 m 単位	0 50 100	41	目標年度
			10,533 m 単位		19%	達成度
指標2			単位	0 50 100	%	目標年度
			単位		%	達成度
指標3			単位	0 50 100	%	目標年度
			単位		%	達成度

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

近年における流域の都市化の進展により、河川空間は水とみどりの貴重なオープンスペースとして捉えられている。国では河川法を改正し、多自然型川づくりの積極的な導入を目指しており、本市管理河川においても河川環境の改善は、治水対策とともに必要不可欠な施策である。

6 有効性…期待される効果があがっているか

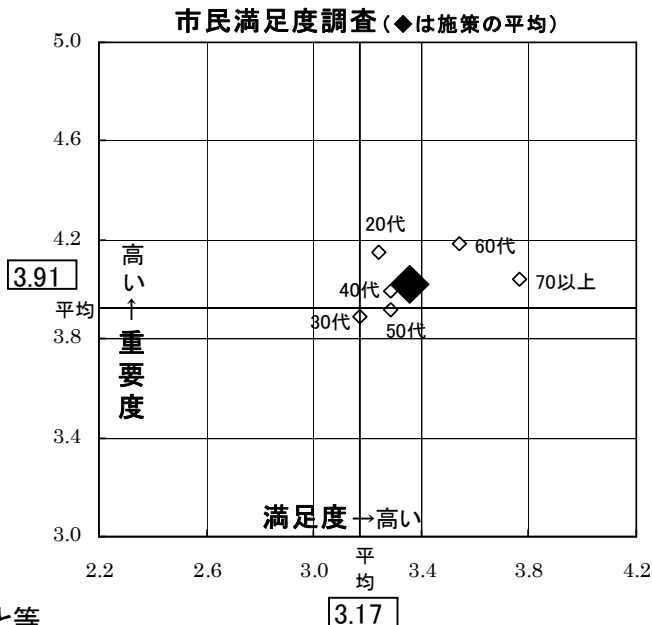
自然環境に配慮した河川改修は、従来の水を流す施設から、土や石などの自然材料を用いた工法により、動植物の生息・生育に優しい河川を創出し、水辺にふれあえる親水空間として実施している。(一級河川道保川)

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

多自然型川づくりは、河川法の改正により国の方針として導入され、規模の大小はあるものの全国的に実施されている。治水の安全性を確保しつつ、石を詰めたフロン籠や自然石埋め込みの護岸及び低水路整備等により、新たな河川環境を創出している。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

◆この施策の満足度は、3.357で、調査した51施策の中で5番目です。
 ◆この施策の重要度は、4.019で、調査した51施策の中で23番目です。
 ◆この施策の改善要望度は、0.468で、調査した51施策の中で27番目です。
 ◇年齢別にみると、満足度は60歳代以上で高く、特に70歳以上で高いことが目立っています。重要度は60歳代および20歳代で高くなっています。30歳代では満足度及び重要度ともに最も低くなっています。



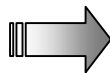
市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)

9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

多自然型川づくりの緩勾配護岸は用地幅が広くなり、事業説明や事業用地が取得済みとなっている河川については、追加の用地取得は困難な状況であるため、護岸材の工夫や低水路整備などにより実施しているのが現状である。
 また、改修済み区間の河川環境配慮をどのようにするか、今後の研究課題となっている。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input type="checkbox"/> 拡充する
<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持する
<input type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

治水の安全性を確保しつつ、動植物の生息・生育環境に配慮した河川改修を推進することが必要不可欠である。

11 2次評価

説明

<input type="checkbox"/> A
<input checked="" type="checkbox"/> B
<input type="checkbox"/> C

12 外部意見

説明

自然の生態系に配慮した河川づくりを進める中で、改修事業の必要性とあり方の検討を行う必要がある。

施策名 自然に配慮した河川環境の創造

施策コード 22210

構成事務事業一覧

事務事業名	担当課	評価年度	決算額(千円)	人員(人)	評価の概要									今後の進め方	施策中の優先順位
					総合評価	達成度	必要性	効率性	代替性	満足度	有効性	公平性			
雨水浸透施設設置助成事業	下水道管理課	14	1,228	0.01	AA	C	B	A	A	B	A	△	継続	再掲	
雨水浸透能力調査費	土木計画課	15	600	0.07	AA	A	A	△	△	△	A	△	継続	再掲	
道保川公園管理運営費	公園課	14	18,738	0.20	AA	A	A	A	B	A	A	△	継続	再掲	
相模川河川敷清掃事業	みどり対策課	15	11,802	0.02	A	A	A	B	△	△	B	B	継続	再掲	

合計 4 事務事業 32,368千円 0.3人 平成14年度評価: 達成度、必要性、効率性、有効性、代替性、満足度
 平成15年度評価: 達成度、必要性、効率性、有効性、公平性